

整備戦略

オートリペア&メンテナンス 月刊

カーアフターマーケットを切り拓く情報・技術マガジン



January 2018

1

特集1

女性経営者に学ぶ 整備業のこれから

特集2

西日本最大のクルマの祭典 —第10回大阪モーターショー—

FRONT
FACE

アルピコ自工 代表取締役社長

林 健一氏

ガラス施工事業者の苦悩(下)

先進安全自動車の増加は避けられない状況になっている。それに伴い、アフタービジネスにおいても、先進技術に対応する情報や技術力は不可欠。整備関連団体や損害保険

会社、スキャンツールメーカーなどが主催する技術研修会には、多くの事業者が集まり熱心に研修を受け、メモを取る姿も目立つ。ただ、あるガラス施工事業者は「エーミングが必要なクルマがどれだか分からない」と本音を漏らす。「せめて対象車種の一覧表でもあれば」と心情を語る。



プリウスを教材にカメラのエーミング作業を行った

**若手中心にエーミングを教育
全営業所に一人ずつ配置する**

「保有全体で見ればまだエーミングが必要なクルマは少ないが、いずれは扱うクルマの大半が必要になることも想定している」と、カーグラス・JIP(さいたま市北区)の田中聡社長は語る。同社では若手を中心にエーミング教育を実践する。若手登用の理由として「ツール類に怖さを感じずに操作できる」ことを挙げる。さらに、

ガラス交換技術の習得には4、5年かかるが、エーミング作業なら数カ月でものできる人が多いためだ。「いままでは特別な作業だったかもしれないが、これからは当たり前」と強調し、今後は営業所に最低一人のエーミング担当者を配置する。

スキャンツールメーカーが教育支援

自動車ディーラーやレンタカー会社などと取引することの多いガラス施工事業者にとって、修理からエーミングまでを総合的に請け負うことができることは強みになる。ただ「何かあった場合に責任が重い」などを理由に踏み出せない事業者は多い。そこで、インターサポート(川崎淳社長、茨城県水戸市)やツールプラネット(浅野一信社長、岐阜市)などのスキャンツールメーカーが研修サポートを展開している。

**現場で使える実践的な
作業研修を実施**

日本自動車ガラス販売施工事業協同組合東北支部(佐藤光男支部長)は、後継者らが中心となって組織する次継会が主催して、エーミング研修会を実施、16社から40人が参加した。研修はツールプラネットとセー



40人が参加した日本自動車ガラス販売施工事業協同組合東北支部の研修会

ファイリョーション(根来裕二社長、川崎市麻生区)が協力し、「現場で使える実践的な作業」に焦点を当てて行った。

テーマは①エーミング作業の基本的な考え方②診断機使用の基礎知識③実車によるエーミング作業の実施デモと実作業体験トレーニング④実務への応用⑤実作業での問題解決、質疑応答。参加者からは「メーター機と汎用診断機のエーミング作業の差異は」「ターゲットの入手方法は」「作業責任はどのように考えれば良いのか」などの質問が出た。根来社長は「ガラス事業者向けの研修は今後全国で展開していきたい」としており、サポート体制を拡充していく方針だ。

(太田 千恵)